

まちの話題 ～国際文化観光都市を支える人～



「沖縄全島エイサーまつり」オフィシャルエイサーかりゆしを受け取りに行った際に、沖縄市観光物産振興協会事務局長の金城諭さんへ突撃インタビューを行いました。

3年振りに開催される沖縄全島エイサーまつり及びエイサーナイトの対応、フランス男子バレーボールチームの合宿受入れ、修学旅行生のおもてなし、テレビや映画のロケ対応のフィルムオフィス等まで、幅広く業務を行っている金城さん。

「今、最も忙しいのは、全島エイサーまつりの対応と、スポーツ合宿の受入れを行うスポーツコミッションの業務。修学旅行生の受入れはコロナ禍で落ち込んだ昨年の売り上げを超える勢い。アフターコロナを見据えて、観光物産振興協会は走り続けています。」と熱く語ってくれました。

一方で、観光客の滞留時間が伸びていないという課題もあり、事業者や市民の方々が観光客を受け入れるマインドを持ち、地域にお金が落ちる仕組みをつくる「稼ぐ観光」を生み出すことでウェルカムな心が出てくるのではないかと、話されていました。

「今後は、インバウンドについても台湾や韓国に力を入れ、台湾からもイベント出展の話があるので検討していきたい。観光バリアフリーにも取り組み、障がいを持っている方も全ての観光客を受け入れられるように、心のバリアフリーも進めていきたい」と笑顔を見せました。

沖縄市の文化・スポーツから国際交流・バリアフリーまで「おもてなしの心」で、金城さんの活動の日々が続いていきます。

(取材:宮里 大八)



きんじょう さとし

金城 諭さん

(沖縄市観光物産振興協会事務局長)

沖縄市観光物産振興協会事務局 TEL.098-989-5566

お問い合わせ／観光スポーツ振興課 TEL.098-923-3475

防災まめ知識



vol.4

～台風による人的被害を防ぐ～

台風による人的被害は、台風の強さや大きさに関わらず、毎年のように発生しています。

過去10年間における市内での人的被害の種類を見ると「風にあおられて転倒」が最も多く、約6割を占めています。更に年代別に見てみると、60～90代が7割を超えて最も多く、台風接近中に外出した高齢者が転倒してケガをするという傾向が多いことが分かります。

転倒の次に「破損したガラスによる負傷」が多く、その後「風にあおられたドアに指を挟まれ骨折・切断」、「屋根の補修中に転落」と続きます。



また、市外においては、海岸で釣り人が高波にさらわれた事故や、強風にあおられた扉が警備員の頭に直撃したと思われる事故も発生しています。

これらの人的被害を未然に防ぐには「台風接近時には不要不急の外出をしないこと」が重要です。台風接近前には家の補修や補強を行い、事前に十分な水や食料を確保するなどして対策を万全にし、暴風時にはできるだけ「外出をしない・させない」ように心掛けましょう。

お問い合わせ／防災課 TEL.098-939-1212 (内線 2047・2349)